

2021年度(令和三年度)各会計決算特別委員会 第3分科会より

2022年 10月24日(月) 都市整備局 26日(水) 環境局

尾崎あや子都議 (北多摩第一) の質疑

都はPFOS・PFOA
汚染の拡大防止
汚染源の解明に全力あげよ



(都市整備局)

米軍横田基地でのPFOS・PFOAの使用実態について…1 p

(環境局)

地下水のPFOS・PFOA汚染の実態解明を …4 p

2021年度(令和三年度)各会計決算特別委員会 第3分科会より

2022年10月24日(月) 都市整備局 26日(水) 環境局

尾崎あや子都議(北多摩第二)の質疑

都はPFOS・PFOA汚染の拡大防止、汚染源の解明に全力あげよ

(都市整備局)

米軍横田基地でのPFOS・PFOAの使用実態について

(環境局)

地下水のPFOS・PFOA汚染の実態解明を

10月24日(月) 都市整備局

米軍横田基地でのPFOS・

PFOAの使用実態について

泡消火剤の使用中止はいつか
訓練以外で使用されているか

次に、泡消火剤について伺います。

泡消火剤には、有機フッ素化合物の

PFOS、PFOAが含まれており、発がん性などが指摘をされています。

PFOSは、残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約で国際的に製造使用が制限され、国内でも一部例外を除き、原則的には使用、製造が禁止されています。

また、PFOAは、世界保健機構の外部機関が発がん性のおそれがある物質に指定し、主要な化学メーカーが既に自主的に使用を廃止しています。物質としての安定生が高いため、環境中でほとんど分解せず、生物中に蓄積することが懸念されているんです。

二〇二〇年四月十日、米軍普天間飛行場から泡消火剤が大量に流出する事件が起こり、九月には米軍のバーベキューによる泡消火剤の流出が起きて大問題になりました。

横田基地でも以前は沖縄と同様に泡消火剤を使用しており、地域住民から不安の声が出されています。

そこで、事実確認のために幾つか質問したいと思います。

横田基地での有機フッ素化合物が含まれている泡消火剤使用はどうなっていますか。

泡消火剤使用はやめたのはいつなのか伺います。

○金子基地対策部長

国からは、米側から在日米軍が保有しているP F O S等を含む泡消火剤について、二〇一六年以降は訓練を目的として使用しておらず、厳格に管理している旨の説明を受けていると聞いております。

○尾崎委員

二〇一六年以降、訓練を目的として使用しておらずというご答弁でしたが、訓練以外で使うことがあるのか、ぜひ確認しておいていただきたいと強く要望するものです。

処分の方法と量は。在庫は

次に、泡消火剤の処分はどのように行っていますでしょうか。二〇二一年度中に処分された泡消火剤は、どのくら

いあるのか伺います。

○金子基地対策部長

国からは、在日米軍は施設区域内の環境管理に当たり日本環境管理基準を策定し、適切な環境管理に努めている。P F O S及びP F O Aについては、この基準において有害物質のリストに掲載され、在日米軍は当該基準に従い管理を適切に行っているものと承知していると聞いております。

また、在日米軍として順次保有する泡消火剤の交換を進めていると承知しており、在日米軍が保有する泡消火剤の交換等の詳細については米側に確認中であると聞いております。

○尾崎委員

私が一番知りたいことは、使用していない泡消火剤はどのように処分しているのか、処分の仕方が知りたかったわけ

です。果たして安全に処分されているのかどうか、そして二〇二一年度はどのくらい処分されたのかということが知りたかったわけですが、順次交換を進めているということしか分からないということです。肝腎なことは明らかになっていないということだと思います。

次に、横田基地に泡消火剤はどのくらいの在庫があるのか伺います。

○金子基地対策部長

国からは、在日米軍全体として順次保有する泡消火剤の交換を進めていると承知している。在日米軍が保有するP F O S等を含む泡消火剤の交換などの詳細については、米側に確認中であると聞いております。

○尾崎委員

横田基地の泡消火剤がどのくらいあるのか、それさえも明らかになっていな

いということですが。確認中ということですので、きちんと詳細を調べていただくよう強く求めるものです。

横田基地への立ち入り調査を

求めよ

神奈川県厚木基地で発がん性が疑われる有機フッ素化合物、PFOSなどを含む泡消火薬剤が基地内を流れる蓼川に流出した問題で、神奈川県と防衛省などは、今年の十月六日、先日ですけれども、日米地位協定の環境補足協定に基づき立入調査を実施しました。

これまで横田基地での泡消火薬剤の問題を幾つか質問してきましたけれども、都民の健康、命に関わる問題なのに、横田基地の状況が全然分かりません。流出してからでは遅いんです。

そこで、都として横田基地の立入調査を行うべきですが、いかがですか。

○金子基地対策部長

横田基地内への立入調査につきましても、環境補足協定上、立入りの要請は米側からの漏出事故発生のお知らせが前提となつていて、国からは、二〇一六年以降、訓練を目的としてPFOS等を含む泡消火剤を使用していないと聞いていることなどから、立入りは困難と考えております。

○尾崎委員

多摩地域は、おいしい水に恵まれたところなんです。古いお宅では井戸があり、農家の方々は今でも井戸水を利用している方もいます。災害時のためにも井戸が見直され、新しく井戸を掘る農家の方もいます。

しかし、福祉保健局が調査している水質調査で発がん性のある有機フッ素化合物のPFOSやPFOAが指針値を上回

る箇所がありました。

住民の皆さんの中には、以前横田基地では有機フッ素化合物の含まれた泡消火薬剤が使用されていたことで、土壌に残っているのではないかと心配の声が出されています。

原因は横田基地だけではないことを承知していますが、住民の安全・安心、命を守るためにも、横田基地で泡消火薬剤を使うことも、流出されることも許されません。その立場で都も責任を果たしていただきたいと思えます。

特に、泡消火薬剤についての今私の方からさせていただいた質問にはほとんど答えていないという状況で、このまま曖昧にするわけにはいきません。

横田基地への立入調査を強く求めて、質問を終わります。

10月26日(水) 環境局

地下水のPFOS・PFOA汚染の実態解明を

PFOS・PFOAの地下水調査はいつ、どこで行われたか

○尾崎委員

私の方からは、有機フッ素化合物についてお尋ねをしたいと思います。

二〇二〇年十一月から十二月に福祉保健局が実施した多摩地域の五十七か所、二十八市町村の飲料井戸の水質調査で、発がん性や発育への影響が懸念される有機化学物質の値が十か所で国の指針値を上回りました。小平市の井戸では、指針値の四倍、国立市では八倍強が検出され、住民から不安の声が出されました。

PFOA、PFOSは、一九五〇年代頃から消火剤やフライパンのフッ素樹脂加工に使用されてきました。都が調査を始めた二〇一八年には、横田基地周辺の立

川市内の井戸で、現在の指針値の約二十七倍を検出、国立市や狛江市、武蔵村山市の井戸でも指針値を上回っていました。二〇一九年の調査では、東村山市の井戸で指針値の四倍超、調布市で七倍超が検出されていました。

また、水道水に関しては、都内全ての給水栓で指針値を下回っていますが、二〇一九年の調査で、府中市、国分寺市の浄水場で指針値を上回るPFOS、PFOAが検出され、水源の一部の井戸から取水を停止することなどの対策も行われました。

PFOS、PFOAに関しては、福祉保健局、水道局、環境局などに係る問題で、都民の健康、安全・安心にとって大変重要な問題です。

そこで、事実確認のために幾つか質問していきませんが、都内のPFOS及びPFOA等の地下水中の濃度状況を把握す

るため、東京都環境公社が調査研究の一環として調査を行っていますが、いつからいつまで、何か所でのような調査を行っているのか伺います。

○宗野環境改善技術担当部長節電行動推進担当部長兼務

東京都環境公社の東京都環境科学研究所は、PFOS、PFOA等の有機フッ素化合物について、平成二十二年度から二十五年度にかけて、島しょを除く都内全区市町村の二百三十七地点で、地下水中の濃度の調査を行っております。

国の指針値を超えた調査地点は

○尾崎委員

国の指針値はどうなっているのか伺います。

○宗野環境改善技術担当部長節電行動推進担当部長兼務

国は、令和二年五月、PFOSとPFOAについて合算して、一リットル当たり五十ナノグラムを地下水の暫定指針値として設定しております。

○尾崎委員

今ご答弁あったように、日本では、二〇二〇年五月によく暫定指針値を決めたということです。

それでは、二〇二一年度の調査はどのように実施されましたか。また、その結果について伺います。国の指針値を超えているのは何か所なのかも教えてください。

○宗野環境改善技術担当部長節電行動推進担当部長兼務

都は、PFOS及びPFOAにつきまして、令和三年度から水質汚濁防止法に

基づく地下水水質測定計画に位置づけ、概況調査と継続監視調査を実施しております。

概況調査では、都内の全体的な地下水質の状況を把握するとともに、未把握の地下水汚染を発見することを目的とするものでございまして、令和三年度は六十二地点を測定し、五地点が暫定の指針値を超過しておりました。

また、継続監視調査は、暫定指針値を超えた地点の経年的な推移の把握を目的としたものでございまして、令和三年度は、測定計画に位置づける以前から調査していた十九地点を測定し、全地点で暫定の指針値を超過しておりました。

○尾崎委員

今のご答弁で、暫定指針値を超えるところが幾つもあるということがよく分かりました。

アメリカでは規制を強化
都として国に規制強化の要望を

アメリカでは、有機フッ素化合物の規制を強化する動きがあると報道もされていますが、日本ではどのような議論がされているのか伺います。

○宗野環境改善技術担当部長節電行動推進担当部長兼務

米国の環境保護庁は、本年六月、飲用水に関しまして、PFOS、PFOAの健康勧告値を引き下げていくと発表しております。

国は、最新の科学的知見に従い、水道水の水質基準の見直しを行う水質基準逐次改正検討会におきまして、有機フッ素化合物について、今回の米国の動きを含め国内外の知見を収集し、今後検討していくとしております。

○尾崎委員

アメリカは、飲料水に関する健康勧告値を引き下げて規制を強めていくということですが、日本でもアメリカのこの検討していることも含めて、今後参考にしながら検討していくことでしたけれども、都として、アメリカなど諸外国の規制強化を参考にして規制を強めて、都民の命、国民の命を守ることに全力を挙げよう、国に強く要望することを求めるものです。

自衛隊立川駐屯地で指針値越え

次に、防衛省では、二〇一九年に策定した防衛省におけるPFOS処理実行計画に基づき、全国の基地等におけるPFOS含有消火剤等の処理を進め、二〇二一年度を実施した全国の基地等における泡消火設備専用水槽の水質調査の分析結果を公表しました。

東京都内にある自衛隊駐屯地で指針値

を超えたのはどこで、何か所あるのか伺います。

○宗野環境改善技術担当部長節電行動推進担当部長兼務

本年七月、防衛省が公表した防衛施設における泡消火設備専用水槽水質調査結果によりまずと、都内の自衛隊駐屯地で暫定指針値を超えたのは、陸上自衛隊立川駐屯地の専用水槽一か所でございます。

周辺市の5つの要望に応え対策を

○尾崎委員

立川駐屯地の専用水槽一か所で暫定指針値を超えたということについて、立川市、昭島市、小平市、日野市、国分寺市、国立市、東大和市、武蔵村山の八市でつくる立川飛行場周辺自治体連絡会構成市長から要望書が提出されています。

市街地に所在する立川駐屯地において、こうした状況は、住民の不安を招くもの

であり早急に解消されなければならぬとして、五点にわたる要望をしています。

その一つが、今回、水環境中の暫定指針値を超えてPFOS及びPFOAが混入していた泡消火設備専用水槽の水槽水は、適切な方法によって速やかに処分すること。二つ目が、上記処分までの間は、当該水槽水を使用しないこと。あわせて、水槽水が漏出することがないよう管理を徹底すること。三つ目が、原因究明を速やかに行うとともに、再発防止策を講じること。四つ目が、泡消火設備を設置及び使用する限りに関して、継続して定期的な専用水槽の水質調査を行うこと。そして五つ目が、以上の泡消火設備専用水槽水の処分等に関する情報は、今後、周辺自治体に速やかに提供するとともに、周辺住民への周知を丁寧に行うことと要望しています。

立川駐屯地のように、暫定指定値を超

えた原因が専用水槽であるという原因が明らかなき、五点については、当然の要望だと思います。都としても、防衛省に対して対策を講じるよう要望していただけよう強く求めるものです。

数値の高い地域の原因分析を

令和三年度の地下水におけるPFOS及びPFOAの継続監視調査結果で、一リットル中二百ナノグラムを超えているのは、立川市で六百四十ナノグラム、調布市は四百六十ナノグラム、府中市は四百五十ナノグラム、狛江市は百四十ナノグラムと非常に高い地域があります。何が原因で高いのか、分析などは行っているのでしょうか。

○宗野環境改善技術担当部長節電行動推進担当部長兼務

PFOS等の有機フッ素化合物は、半導体の製造、撥水加工の原料、泡消火剤

など様々な用途で使用されてきました。

そのため、都内では、島しょを除く全ての区市町村におきまして、地下水からPFOSまたはPFOAが検出されており、原因の特定は困難と考えております。

○尾崎委員

原因の特定が困難だということですが、地下水を測定しているだけでは、住民の不安は募るばかりです。

住民の不安を解消するためには、原因の分析は待ったなしの状況であると思いますが、都はどのように対応していくのか、改めて伺います。

○宗野環境改善技術担当部長節電行動推進担当部長兼務

都は、PFOS、PFOAについて、法に基づき地下水水質測定計画に位置づけ、都内全区市町村の全体的な状況把握と、未把握の地下水汚染を発見するため概況

調査を行うとともに、継続監視調査により、暫定指針値を超過した地点の経年的な推移を把握しております。

調査結果につきましては、都のホームページで公表するとともに、井戸の所有者や区市町村、関係機関に的確に情報提供しております。

NPOの血液検査に協力を

○尾崎委員

調査を継続して行うことは重要です。しかし、調査結果を公表するだけでは、住民の不安は解消されません。

水道水の汚染が指摘されている府中市と国分寺市の住民を対象にNPO法人が実施した血液検査を、二〇二〇年十月に公表されています。その結果で、発がん性や発育への影響が懸念される有害化学物質の血中濃度の平均値が、府中市で全国平均の二倍超、国分寺市で一・五倍だったことが明らかになりました。

多摩地域では、血液検査に協力してくださる方々を今募集もしています。血液検査を提供するので何が原因なのか明らかにしてほしい、こういう要望もたくさん出ています。関係する福祉保健局、水道局、そして横田基地を所管する都市整備局との連携を強めて、都庁一丸となつて有機フッ素化合物のPFOS、PFOAが暫定基準値をなぜ超えているのか、原因についても明らかにすることを強く求めて、質問を終わります。

ご意見・ご要望をお寄せください

発行：日本共産党東京都議会議員団

2023年1月

〒163-8001

東京都新宿区西新宿2-8-1

電話 03-5320-7270

FAX 03-5388-1790

<https://www.jcptogidan.gr.jp>

*この冊子は速記録を元に作成しています。正式な議事録は都議会ホームページでご確認ください。